

(様式 1)

令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立文花中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 数学に関しては、全学年全国の正答率を上回っており、経年で見ても正答率が上がっている。・ 英語も全学年全国の正答率を上回っている。・ 3年生は、数学、英語に加えて国語も3年間全国正答率を上回っている。・ 1年生は、全教科全国の正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・ 社会、理科は2, 3年生とも経年比較で正答率が下がっている。・ 社会、理科に関しては、2, 3年生で全観点で全国平均の-5 p t 未満である。・ 1年生は、理科の2観点だけ全国平均を下回っている。・ 社会は、地理より歴史に課題があり、上位の生徒が少ない。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 学級の規範意識は3学年とも標準スコアで全国値を+2ポイント以上高く、学級環境はどのクラスも良好である。・ 1, 3年生では、学習意欲が高く、「成功体験と自信」及び「感動体験」も標準スコアで全国値を上回っている。・ 「先生のささえ」がどの学年も標準スコアが全国値を上回っている	<ul style="list-style-type: none">・ 3学年とも「充実感と向上心」の標準スコアが低い。特に2年生は-4ポイントも低い。・ 2学年は「学習習慣」や「学習意欲」も標準スコアが-2ポイント以上低い。また、「学校の授業以外で週何日勉強しますか。」の質問にほとんど勉強しないが全国平均の1, 7倍である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 漢字、計算、英語コンテストに向けての家庭学習(ホームワークマラソン)が定着し合格率が向上して「やればできる」という意識が高まっている。・ 都の調査では、学習動機として将来の仕事や生活に役立つからの肯定意見が80%を超えている。また、学習の進め方で間違えた漢字や計算はどこで間違えたか考えているが、85%を超えている。・ 都の調査の学習指導の工夫では前の学習した内容と結びつけて考える時間がある。他の人と考えを交流しながら課題解決する活動を行っている。自分の考えたことを他の人や先生に説明する時間がある。等で80%を超えている。	<ul style="list-style-type: none">・ 各検定の受検率が伸びない。英検、漢検、数検の3級取得。トリプルスリーを奨励しているが、挑戦する生徒が少ない。・ 都の調査では、学習の進め方で、自分の考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしているの肯定意見が38, 3%と低い。・ 都の調査で、漢字の部首を考えながら覚えるや問題文の内容を図や表、グラフに表して覚えるが、50%を下回っている。・ 学習習慣では、教科書を読むなどして、授業でこれから学習することを見通しを持つようにしているが50%を下回っている。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 「研究協力校」として、学びに向かう力の育成を目指し、授業力の向上を目指す取り組みを行う。

- ・「分かる授業」「学力が向上する授業」の実践集の内容や各教員の実践集の重点項目が実施できているか、年2回の研究授業や年3回の授業観察期間を活性化させる。
- ・全校体制で研究のテーマの（a 学習意欲の喚起。b 他者と学び会う。c ふり返り。）を意識し、教員の授業力向上を図る。
- ・「学習ふりかえり期間」に、学習状況調査の正答率が50%未満の問題を中心に学習する。
- ・引き続き、授業規律を高めるためにも、授業時の約束事を文中 Challenge&Change（文中 CC）として掲示し徹底を図る。

(2) 「研究協力校」として、学びに向かう力の育成を目指し、自己肯定感を高める取り組みを行う。

- ・年2回の i check の結果や東京都学習状況調査を分析し、生徒の自己肯定感を上げるための取り組みに活かす。
- ・生徒の自己肯定感を上げる授業方法を外部講師にご指導いただくなどの校内研修を行い、実践につなげる。
- ・年3回の基礎学力コンテスト（漢字・計算・英単語）の取り組みにより「やればできる」達成感を体験させ、自己肯定感の向上を図る。
- ・帰りの学活で、「本日の MVP」などの日直による発表活動を継続し、他者受容感や自己肯定感、自己有用感の向上を図り「やればできる」生徒を育成する。

(3) 補習学習や家庭学習の必要性や重要性を意識させ、モチベーションを高める取り組みを行う。

- ・放課後学習教室や試験前の質問教室などの取り組みを、進路指導部を中心に計画を立て、実施する。
- ・各教科でロイロノートや「ふりかえりシート」「ミライシード」を活用し、家庭学習の定着を図る。
- ・家庭学習を定着させるために、単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルで計画的に設け、テストの範囲を家庭学習と連動させる。
- ・基礎学力コンテスト前は、出題される問題を「ホームワークマラソン」として配布し、繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・墨田区学習状況調査において、全観点の平均正答率を全国との差が-5 p t の教科をなくす
- ・全教科の E 層を 0 にし、B 層の人数を増やす指導を行う
- ・同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす
- ・社会、理科の学力向上を全校体制で目指す。